

美樂舎

<http://bigakusya.com/>

事務局情報

東京都中央区京橋3-9-2プラザ京橋ビル K's Gallery 内
Tel 03-5159-0809 Fax 03-5579-9004 メール kgallery@eagle.ocn.ne.jp

美楽舎は1990年2月18日に美術を愛する仲間が集まり、東京で産声をあげました。会員は全国各地で活動しています。毎月例会を開催し、美術館にて学芸員の方からお話を伺ったり、アトリエを訪問したり、興味の尽きない内容で活動しています。

■美楽舎の活動例

- ・第1回例会 1990年2月 講演 日本画科 平岩洋彦先生
- ・第30回例会 1992年6月 第1回マイコレクション展
- ・第39回例会 1993年3月 座談会 洋画家 田村能理子氏を囲んで
- ・第100回例会 1998年3月 アトリエ訪問 絹谷幸二先生
- ・第148回例会 2002年1月 講演 佐野ぬい先生 青について
- ・第160回例会 2003年1月 講演 有元容子先生 夫、有元利夫を語る
- ・第183回例会 2004年12月 講演 NHK山根基世さん
- ・第196回例会 2006年1月 講演 永井画廊 永井龍之介氏
- ・第213回例会 2007年6月 講演 評論家 山下祐二先生
- ・第224回例会 2008年5月 講演 美術家 山口晃氏
- ・第251回例会 2010年8月 講演 作家 林望氏
- ・第263回例会 2011年8月 第20回マイコレクション展 企画展 美楽舎20年の歴史

■美楽舎 2012年の例会予定

- 5月27日 飯縄寺 等訪問(北斎の原点 波の伊八巡り・千葉)
- 6月10日 青木享起・淳子氏(青木絵画修復工房:横浜)14:00~17:00
絵の修復現場と世界の修復の動向(工房見学会があります)
- 6月21~24日 ACT ART COM Art & Design Fair参加
- 7月22日(日) アーティスト 諏訪敦氏講演
- 8月12~18日 マイコレクション展(K's Gallery)
18日(土) 塩原将志氏講演Ⅰ:美術品の収集の仕方、考え方
9月9日(日) 塩原将志氏講演Ⅱ:絵画の市場動向と収集
9月分科会 越後妻有トリエンナーレを歩く(泊りがけ企画)
- 10月21日(日)アーティスト 神戸智氏講演(日本画家)
- 11月 泉谷元氏講演(元伊勢丹美術部長)予定
- 12月 小倉敬一氏講演(サラリーマンコレクター、交渉中)
長谷川利行、長谷川暁二郎などのコレクター

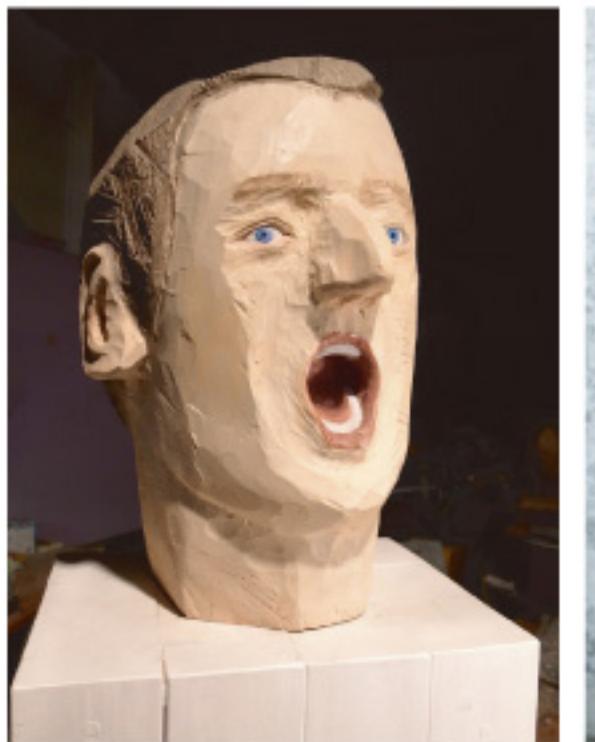
■美楽舎会員募集中

- ・入会特典：会員料金による例会への参加、マイコレクション展への参加資格、「美楽舎会報」の毎月お届け 等
- ・会費：月額2,000円(自動振替)
- ・入会手続き：会費の「講座振替依頼書」および「入会申込書」を事務局に提出、他お問合せは事務局まで

■美楽舎事務局アクセス



■都営浅草線 宝町駅1分 ■東京メトロ京橋駅3分
■JR東京駅、有楽町駅10分



イギリス男 2010、楠



お化け箱 2010、真鍮、石粉粘土

石井誠 Ishii Makoto

「詩的なもの」とは自分自身のこころに他者を呼び入れ、ひろげられた想像の空間において、全体と通い合うまでに起きる反響(波紋の干渉)の要因であると考えます。人間のふとしたことで感じる心的で繊細な『詩的なもの』を制作し、表現できればと考えています。

神奈川県生まれ

東京造形大学 彫刻科卒業

2001 藤沢 さいか屋

京都 天橋立アートフェスティバル

2002 藤沢 gallery gineta

京都天橋立アートフェスティバル

2003 青山 プロモアルテ/グループ展

2004 藤沢 gallery gineta

青山 プロモアルテ/グループ展

2005 藤沢 gallery gineta

青山 プロモアルテ/グループ展

2006 藤沢 gallery gineta

青山 プロモアルテ/グループ展

2007 藤沢 gallery gineta

福島 blaurot

2010 藤沢 gallery gineta 福島 blaurot



岩井昌代 Masayo Iwai

(日本図書出版・ヴィンチ美術家百科事典)

洋画家。東京都出身。幼い頃から父親に美術の英才教育を受け育つ。都立工芸デザイン科卒業後、演劇の道へ進む。新劇の舞台出演を経て、結婚。主婦として暮らし、専念再び絵筆をとる。2000年、銀座第一ホテルにて初の個展を開催。以後、ギャラリー・パレス(大手町パレスホテル)、ギャラリーワタバコ(日比谷)、聖路加国際病院ギャラリー、ギャラリービーた等で毎年個展を開催。

ル・サロン展に入選。水彩、油彩画かとして風景、人物、静物、花など様々なものを題材とする。特に風景画は全て現場で描く、現場主義を貫いている。肖像画を依頼されることも多いが、いわゆる似顔絵ではなく、モデルから感じたことを自由に表現している。作品は、都立荏原病院、柳原記念病院(府中市)に収蔵されている。代表作に『ある舞台女優・その夢の果てまでも』『雨上がりの東京駅付近』『La Vie en Rose』等がある。美しい日本の山河、懐かしい山里を、二度と戦場に、焦土に化す日の来ないことを祈りながら制作を続ける。元太陽美術協会会員。現在、日本美術家連盟会員。アートサロン・マーシャの主宰。



織田泰児



藤井光永

今回ご紹介する4人の作家は日本のアートシーンにおけるユニークな表現者です。

「織田泰児」は一見何気ない風景ですが、筆や道具を使わずに絵具をたらしたり流したりするだけで制作します。地球上の自然現象と相似の現象を画面の上で起こすという、アナログの「フラクタル自然絵画」です。

「加藤雅巳」はデザイナーとしてのキャリアの上に築かれた人物画に定評があります。自由で自在なデフォルメによる人物は、正に「現代の写楽・日本のロートレック」と呼ばれるにふさわしい作品です。

「津田のぼる」は何気なく捨てている空き缶で制作します。環境にやさしい「缶響アート」です。子供のような無邪気さと確かなデッサン力に裏打ちされた人物や創造の生き物たちに、思わず異次元に引き込まれます。

「藤井光永」は広告業界で活躍中の若手カメラマンです。資生堂勤務時代に鍛えられた技術と洗練されたセンスから繰り出される夜の東京の作品群は見事に時代をヒットしています。



加藤雅巳



津田のぼる

澤登丈夫 presents はまぐちさくらこ



「涙はないでここにいて」2008年／水性ペン、油性ペン、鉛筆／233×272mm

「涙もなきでも
涙もなきでも
好き。
いっしょに旅にで
帰って来なかつたね。

ベンギン、うたううたうベンギン。
歌うベンギン、手が温かいベンギン、
わたしの目の上に涙滴をのせたベンギン。」

あ、まちがえた
せんふ、ベンギンじゃなかった
なんだっけ
えーと
でも
いいの
いいか

あたらしい、よいきもち

丹伸巨 presents せきやかよこ



＜推薦者の言葉＞
推薦者：丹 伸巨 ナイーブに搖れ動く、繊細で傷つきやすくちょっと切ない心象世界を、人物や植物、動物、などのモチーフを用いて展開し続けている。

石堂琢己 presents こばやしまな

こばやしまな
(銅版画家、カラフルイラストレーター)

1985年 東京都生まれ
2011年 多摩美術大学版画科卒業

作家歴

2008年 西麻布「諺」にて初個展
2009年 講談社フェーマスイラストコンペ入選
2010年 第6回世界絵画大賞展入選
岡山県美作市美術館バレンタイン展にて展示
第9回三菱商事アートゲートプログラム入選
ニッケビュアハートイラストコンペ入選
吉祥寺コビスギャラリーにて展示
2011年 三軒茶屋galerie H個展
吉祥寺コビスギャラリーにて展示
第13回三菱商事アートゲートプログラム入選
第7回世界絵画大賞展協賛社賞受賞
第5回山本鼎版画大賞展入選

絵画教室ちゅーりっぷ教室 主宰 <http://art-tulip.jimdo.com/>
現在、銅版画家、イラストレーターとして活動中
<http://komana.jimdo.com/>

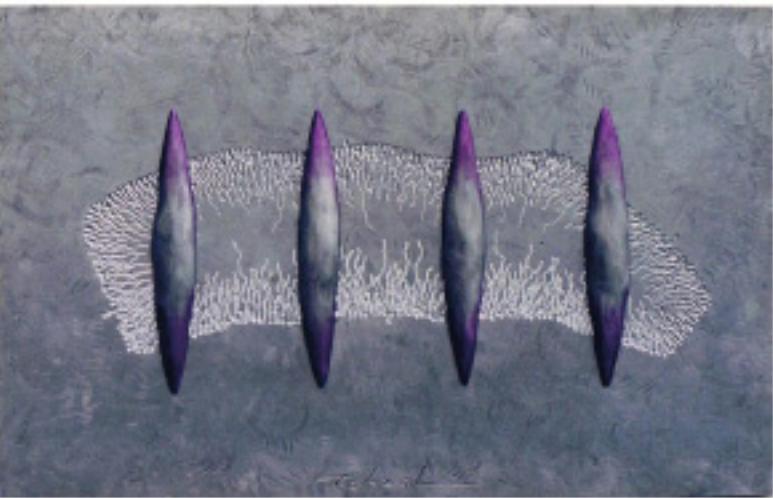
●推薦者のことば

こばやしまなさんを推薦します。2009年の多摩美祭で初めて彼女の作品を見て以来、ずっと注目してきました。自己の内面に向かう学生の作品が多い中で、外に向かって力強くストレートに訴えかけてくる一方、銅版の無数の繊細な線が、この若い作家の多感で鋭敏な感性を表しているように思います。「世界に向けて虹を吐く」が彼女のアーティストテーマですが、その言葉のとおり、彼女の作品が世界中の人々を幸福な気持ちにしてくれることを信じています。推薦者：石堂琢己(美楽舎会員、主に学生の版画作品を中心に蒐集。その数500点以上。)

浪川恵美 presents 中村隆



不可視域003, アルミニウム, 400 × 330mm



work-A-No.13, アルミニウム, 498 × 784mm

浪川恵美 presents

中村隆(金属造形作家)
1949 東京生まれ
1986 武蔵野美術短期大学工芸デザイン科卒
1993, 1994 日仏現代美術展優秀賞、
ビブリオテック・デ・ザール賞
1993, 1994, 1999, 2000 毎日現代日本美術展
2005 文化庁派遣芸術家在外研修(スペイン)
2007 新星展佳作
2008 展賞・損保ジャパン美術財団奨励賞
2010年7月 悪性腫瘍にて他界、享年61歳。

個展多数
1992, 1995, 1997 村松画廊
2000 ギャリー銀座汲美
2002 ギャラリーアンファン
2008 ガレリアグラフィカbis他

●推薦者のことば

推薦者：浪川恵美(美楽舎会員・Art attendant)

去る2010年の七夕、61歳で他界した中村隆氏は、壮大な宇宙に生かされている万物への畏敬や憂い、いとおしさをテーマに制作して来たアーティストです。出会いは1998年。私の琴線を震わす【アート】の世界へ誘う切っ掛けをいただいた作家の一人でもあります。三回忌にあたる2012年9月に、川口アートギャラリー・アトリアにおいて遺作展の開催が予定されています。

北林憲次 presents 机ツヤ子・K.K COLLECTION: 淀井敏夫、柳原義達、荻原守衛、舟越保武 他

机ツヤ子 — TSUKUE TSUYAKO
<http://www5.ocn.ne.jp/~tsuyako/>
<経歴>

ソニーマガジンズオーディション出身、1995年漫画誌「きみとぼく」でデビュー、その後フリーで活動
■漫画連載 MONOマガジン「豆乳に真珠」、JUICE「夜明けのリアル」、フロムA「ポマト日和」「パンディーちゃんが行く」、TV.Bros「プロス女学園」、きみとぼく「ピンとロボ吉」
■漫画、カット掲載 フロムA、TV.Bros、MONOマガジン、エスクアア、ヴィータ等
■コラム連載 フロムA、きみとぼく
■その他活動 BS朝日「ポーブ」オープニングイラスト、「ニヒル牛」参加 たま石川さんすごろく旅参加、アットマーク社グリーティングカード、東美デザイン株式会社広告イラスト、三才ブックス書籍挿絵、書籍「東京スタイル」日記 等

K.K COLLECTION
アートな居住空間を作るために集めた「日本近代彫刻の名品」+「若林奮の版画」です
<出品作家>

■荻原守衛(1879~1910)
荻原守衛は、近代日本の彫刻家の中で、「彫刻」とはどうあるべきかと言う問い合わせに対して真剣に向き合い、ひとつの回答を示し得た。1908(明治41)年。そこに日本近代彫刻の誕生を見ることが出来る。(日本彫刻の近代、明治の彫刻:古田亮) 代表作品:抗夫、文覚、女
■柳原義達(1910~2004) 日大芸術学部主任教授、文化功労者
■淀井敏夫(1911~2005) 日本芸術院会員、文化功労者、文化勳章、二科理事長
■舟越保武(1912~2002) 文化功労者、東京芸大教授
■富永直樹(1913~2006) 日本芸術院会員、文化功労者、文化勳章、日展理事長
■若林奮(1936~2003) 多摩美教授



荻原守衛 抗夫



若林奮 鈴の振動・強

舟越保武
ローマの娘淀井敏夫
ローマの公園(小)